

山本 たかお (やまもと・たかお) 先生

株式会社テレビ朝日 編成制作局次長・音楽制作CP

1959年、京都生まれ。

1982年、一橋大学法学部卒業。

(株)テレビ朝日入社、制作局配属。

数々の音楽番組のAD、「グラミー賞SP」のD。

1986年、「ミュージックステーション」を立ち上げ、以来丸

23年担当、この秋24年目に突入。D、チーフD、プロデューサー兼演出を経てチーフプロデューサーに。

その他にも「パパパパ PUFFY」、「裸の少年」、「マシュー S TV」、「堂本剛の正直しんどい」、「いいはなシーサー」などを企画、担当。現在、(株)テレビ朝日 編成制作局次長兼「ミュージックステーション」チーフプロデューサー、「タモリ倶楽部」プロデューサー。

甲南女子大学文学部メディア表現学科 客員教授。



〈講義概要〉

人気音楽番組「ミュージックステーション」を23年間担当し、現在はチーフプロデューサーとして現場を統率する山本たかお氏が、音楽番組ができるまでの現場の仕事について講義を行った。

まず、特別に用意されたVTRで、テレビ番組を作る現場スタッフの仕事を解説。その後、「ミュージックステーション」の歴史や制作の仕組みについて具体的に説明した。その中で、「子供が最初に知るエンタテインメント」として若者に向けた番組を作るというこだわりや「音楽界のお手伝い」としての役割、一貫して音楽を大事にするコンセプトなどを伝えた。加えて、一曲の楽曲が放送されるまでの演出の過程に密着したVTRで、スタッフの妥協しない姿勢を提示。

受講生は、普段視聴者として見ている音楽番組制作の裏側に触れ、現場に憧れを抱くと同時に、その厳しさを痛感した。山本氏はそんな学生に対し、エンタテインメント業界で活躍してほしいというメッセージを残した。

《受講生の感想》

「生放送」とは、ある瞬間を切り取る唯一無二の瞬間が何千世帯に伝わるキャッチボールのようなもののように感じました。最近のメディアはどこか無機質に思える番組が多い中、このMステのようなリアルタイムでアーティストを感じる事ができる番組はすごく貴重だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

制作の現場、その熱意の凄さに圧倒されるばかりでした。フロアディレクター・ディレクター・AD・照明マン・美術さん・プロデューサーに営業の方に、構成作家、他にも様々なスタッフが皆プロ意識を常に持ちながら徹底したお仕事をされているのだ、と感心するばかりでした。

立命館大学・経済学部・4回生

私は、小さい頃からMステが大好きで、ずっと音楽番組のプロデューサーになることが夢だったので、今日は現場の山本先生のお話を伺うことができ、本当にうれしかったです。スタッフに関するお話の中で、制作スタッフ12~13人、生放送中は5~6人という少人数で制作しているというお話を聞き、とても驚きました。私とそのスタッフ陣の仲間に入ることができるのは奇跡の確率なのだ...と思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

MUSIC STATION は歌番組なので、今までは「アーティストの歌を聞いて感動する」番組として見ていました。しかし、この授業を受けてみて、1つの番組に携わる人々の仕事の様子、そして1度の放送の中の1曲が流されるまでにたくさんのスタッフの方たちが関わり、歌の世界観を盛り上げるための美術さん、臨場感のあるカメラアングルで放送するカメラマンさんなど、全ての人の努力が集まって最高のパフォーマンスが放送されているのだと思うと非常に感動しました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

お金がない、ライブにいけない子供たちのためにエンタテインメントを体感できるはじめての媒体になればいいということばが印象に残りました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

すごく華やかな世界でも、過程が大変で人の力が大きいというところ、実際に働かれている方々が生き生きと自信に満ちた顔をされていたところ、本当に魅力的な仕事だと感じました。私も自分が自信とやりがいを持って、キラキラとしていられる仕事がしたいと思っているので、うらやましく感じました。

京都橘大学・文化政策学部・3回生

